

## 研修報告書 No. 4

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立 沖の島へき地診療所

私は東京出身、東京育ち、親戚も東京近郊なのでまず田舎というものを身近に感じる経験がなかったのでそこからとても新鮮でした。今回研修させていただいた大井田病院、渭南病院共通して学ばせていただいたことはその地域を知ることでした。観光はもちろん地域包括支援センターの活動や訪問看護、往診、特別養護老人ホームへの診察などもとても貴重な経験をさせていただき、また考えさせられました。

高知県では人口あたりの医師の人数は少なくないようですが、高知市周囲に医師の8割が集まり、地域では医師の高齢化が進んでいるそうです。私たちの学年から医師を地域に散らす目的も含め新専門医制度がはじまります。それでうまく県ごとには医師の人数が集まるかもしれませんが、県内ではまた格差が広がるように思えました。また土佐清水市では高齢化率が45%と進んでその中で医療として求められるものも違い地域包括医療センターとの連携などが重要ということがわかりました。国家試験では少し勉強しましたが、大学病院での研修では接する機会がなくその重要性を認識しました。医師として医療従事者として知っておくべきことだと思いました。

なかでも印象的だった実習は沖の島実習です。おそらく昭和大学の地域医療研修で離島研修があるのは唯一だと思います。人口約200人、医師在住は週4日、小学生は島に10人とさらに私とは無縁の場所で非日常が味わえてよかったです。島で指導していただいた先生からの話で地域医療は点でなく面でしていくものという話がとても印象に残りました。高知県では沖の島の診療所の当番をいくつかの病院で担当し医師を派遣しているそうです。先生が「1週間に1度は行けないけど、月一だったら行ってもいいと思わない？」という発言にたしかにと納得してしまいました。高齢化がより進んでいる島に関して10年後どうなっていると思いますかと聞いたところ考えたくないと言っていたのも心に残りました。

研修に対する意見は特にはないです。どちらの病院も最高のおもてなしをしていただきました。地域医療をその地域を知ってほしいという思いがとても伝わってきました。普段の研修と比べ確実に時間にも余裕があるので当直も考慮していただけたらより地域医療を学べるのではと思いました。

今回の研修で学んだことはその患者さんに適した医療が必要なようにその地域に適した医療が必要だということです。そのためにその地域を知る、楽しむということが重要だと

いうことを学びました。最後に1か月間大変お世話になりました。普段得ることのできな  
いとても有益時間を過ごすことができました。後輩たちにも高知医療再生機構の助成を活  
用した高知県での研修を勧めたいと思います。